進路だより

秋田県立秋田きらり支援学校
第５号
令和２年２月２１日発行

未来から今を考える③

第３号から引き続き、本校卒業生から、在学中に学んで良かったこと、在校生へのメッセージ等、インタビューした内容を掲載しています。進路について、ご家族で考えるきっかけにしていただけたらと思います。

今号は、平成２９年度の卒業生です。
自宅で生活しながら、**由利本荘市役所**で働いています。

1| どんな仕事を担当していますか？

紙媒体で残っている昔の資料を、**Excel を使ってデータ化**しています。電話応対をすることもあります。

2| 仕事でやりがいを感じることは？

データ化したものが、**必要なときにスムーズに使われ、人の手に渡ったり、作業の効率化につながったりすることを期待**しています。「ありがとう」と言ってもらえることもうれしいです。

一日の過ごし方（月～金）

６：０５までには起床　準備
７：１３発のバス＋徒歩で出勤
８：３０　勤務開始
１２：００　休憩
１３：００　勤務再開
１７：１５　退勤(バスや保護者の車など)
帰宅後：夕食や入浴、友達と電話など
２３：００までには就寝

3| 働いていて大変なことはありますか？

コミュニケーションです。学生の頃はできていると思っていましたが、社会人としての関わり方は全然違いました。迷惑をかけてしまうかな…と思い、自分の言いたいことが言えず、ためこんでしまって苦しい時期もありました。**いろいろな年代の方と関わるので、気持ちの伝え方が難しい**と感じています。

4| 職場で配慮してもらっていることはありますか？

環境面では、**階段や玄関、トイレに手すり**を付けていただけて、とても助かっています。
仕事面では、普通は〆切がある仕事が多いと思うのですが、今はまず自分の仕事を自分のペースでやることが大切と言ってもらっています。

5| 在学中にやっていて良かったこと、試験前にやったことは？

Excel や **Word** です。パソコンの基本的なことを押さえておくと、仕事の幅が広がると思います。
夏休み中は特に力を入れて採用試験の勉強をしました。試験前には、面談に備えて練習も行いました。

6| 後輩に一言

私は中学生の頃から公務員になりたいと思っていました。皆さんにも、**自分が「やりたい！」と思ったことに、１回でも挑戦してみてほしい**です。周りの人がきっと応援してくれると思います。

（文責：池田和）

～社会の中で、そして高等部ですべきこと～

中学部版では前号まで、**高等部卒業後の進路について紹介してきました。生活介護施設や就労支援Ｂ型の施設など、先輩の進路を中心に紹介しました**。では、直前の進路、「高等部」では何をすればいいのでしょうか。

１　「見学・実習（体験）」を計画的に行うこと

（１）特別支援学校だからできること

学習の中で自分が希望する進路先を見学したり、実習で試したりすることができます。中学校、高等学校でも行われてはいますが、進路希望先へ見学等を継続的に行い、時期などを相談して個別に丁寧に対応できるところが、特別支援学校のよさです。基本的には、前・後期の２回の実習期間を使って、見学や実習を行います。３組の生徒については、長期休業中の実施が基本です。

（２）　よい点

自　分～事業所について知ることができる（見学、実習で一日の流れを体験）。
→複数の事業所を見て体験し、自分に合っている事業所を探せる。
体験することで、相談できる人や活動内容が分かり、自信をもつことができる。

事業所～実習生について知ることができる。
→受け入れが可能か検討できる。お試し期間が設けられる。

２　「見学・実習（体験）」に向けて今からできること

（１）　どんな所に見学、実習に行きたいかイメージする。

・自分に合った所、家庭の状況に合った所は、どんな所なのかを考えておきましょう。

（２）　自分のことを知る。

・自分の得意なことは？一人でできることは？
周囲に依頼したいことは？苦手なことは？
・どうすれば一人でできる？一人でできるための工夫？
実習をする時には、事業所に子どものことを詳しく伝えます。
「自分」のことを正しく相手に伝えられるようにしておきましょう。

特別支援学校の学習の特徴として、一人一人の目標や課題に沿って学習を行うことが挙げられます。高等部で社会生活に向けいち早く取り組むのが支援学校です。

（文責：佐々木龍）

事業所見学の紹介

中学部３年の生徒１名とその保護者、担任が、冬休み中、事業所見学に行ってきました。そのときの様子や保護者からいただいた感想、見学先となったいなほ作業所についてご紹介したいと思います。いなほ作業所では、説明を受けながら事業所内を見学した後、実際の作業も体験させてもらいました。

箱作り

フルーツキャップの作業
（５個ずつまとめたそうです）

～保護者から～

・職員の方と利用者さんが一体となっていて、とても雰囲気がよい。
・利用者さんがやりやすいように、職員の方が工夫をしてくれている。
・利用者さんが笑顔で仕事をしているのがよい。
・キャンドルの材料になるロウを削る仕事は、一人一人のやり方で作業できるのがよいと思った。

社会福祉法人秋田いなほ福祉会　いなほ作業所

住所：秋田市山手台二丁目１７番
定員：就労継続支援Ｂ型　　10名
　　生活介護　　25名
作業内容：自主製品（キャンドル、さき織り等）
　　贈答用箱作り（御中元、御歳暮、他）
　　メール便配達、フルーツキャップ等
入浴サービス、昼食提供、医療的ケア：実施していません。
送迎サービス：新屋方面や秋田駅（西口）方面への送迎を行っています。

いなほ作業所は、**就労継続支援Ｂ型サービスと、生活介護サービスを一体型に提供する多機能事業所**です。毎日取り組む作業のほか、月・年間行事も様々なものが予定されています。車椅子での利用者は現在おりません。

★長期休業中を利用しての事業所見学。高等部卒業後に向けてのとてもよい学習になったようです。